

91 慢性関節リウマチ患者における血清中および尿中フェリチン値

白神敏明, 平木祥夫, 青野 要 (岡大 放)
西谷皓次, 波多野誠, 小倉俊郎, 高岡道夫,
太田善介 (岡大 三内) 江沢英光 (倉敷 広済)

血清フェリチン値(s-fer)の測定は体内の鉄貯蔵量の指標・腫瘍マーカー・急性炎症産物の一つとして利用され、尿中フェリチン値(u-fer)の上昇は尿路系腫瘍・溶血性貧血患者において知られている。今回、われわれは慢性関節リウマチ(RA)患者において血清・尿中フェリチン値を同時に測定し、その臨床的意義について、比較検討した。RA患者のs-ferは 36.7 ± 28.9 ng/ml (Mean \pm SD, n=165)で正常範囲内であった。各々の症例においてs-ferはCRP・血沈値の変動と相関し、高 γ -gl血症、RAテスト陽性群で高い傾向を示した。血清鉄・ヘモグロビン値とは無関係であった。治療別u-ferは、非ステロイド性抗炎症剤: 5.3 ± 4.9 ng/ml (n=16), 金療法: 14.1 ± 20.2 ng/ml (n=15), D-ペニシラミン: 6.7 ± 7.0 ng/ml (n=10), ステロイド剤: 6.2 ± 4.7 ng/ml (n=4)と正常値(5.1 ± 4.1 ng/ml, n=23)に比して金療法群で高い傾向を示した。

92 RIAによる尿中Albumin測定法の基礎的ならびに臨床的検討

関和子 坂牧久哉 富樫和美 石神達三
(北里ラボ, ブリストル・マイヤーズKK)

糸球体基底膜の選択効果に異常を生じた場合尿中に出現する血漿蛋白はAlbuminが大部分を占めている。最近、試験紙法で検出できない微量Albumin測定法としてRIAが開発され早期腎症の診断が可能となってきている。

今回、我々は米国DPCより尿中Albumin測定RIAキットを入手し、その基礎的ならびに臨床的検討を行った。

室温30分のインキュベーションにて0-60 μ g/mlの尿中Albuminの測定が可能であり、再現性、回収率、希釈試験はいずれも良好な結果を得た。健常人45例の尿中Albumin測定値は2.2-12.6mg/24hrs.に分布し、平均は6.4 mg/24hrs.、標準偏差は2.73であった。

本法は短時間で簡便に尿中Albumin濃度の測定が可能であり、腎機能障害の早期発見に有用と考えられた。

93 血清微量成分の安定性の検討

—市販コントロール血清の安定期間について—
宇佐美政栄 (岡山済生会総合病院 放射線科)

市販コントロール血清(C血清, ダイナボット社)を1)凍結, 2)凍結融解のくりかえし(凍融), 3)4℃, 4)室温の4とおりに保存, 14項目について経時的に測定した値が, 凍結保存血清の測定値内(M \pm 2SD)にあるか否かを目安に, 保存のちがいで影響を検討した。結果, 室温保存血は葉酸の8日からCEAの103日, 4℃保存血は葉酸の11日からCEAの103日以上, 凍融の回数は葉酸の12回からCEAの68回であった。全般には, C血清の安定期間はプール血清と新鮮血清のあいだであった。安定期間の過ぎたプール血清, 新鮮血清の測定値は, $\pm 2SD$ の範囲から大きく逸脱してゆくが, C血清の逸脱は小さい。また, プール血清, 新鮮血清は10日程度の室温放置で腐敗, はげしい悪臭を放つが, C血清は防腐剤を加えているためか, 100日以上放置しても混濁や悪臭は全くない。

尚, 本総会では, プール血清, 新鮮血清の結果とも対比し報告する。